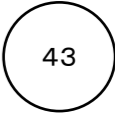


令和 7 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 筑紫丘 高等学校



<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>豊かな心を持ち、人権感覚と創造力に富んだ、世界に貢献できる人材を育成する学校 人権感覚を全ての教育活動の基本とし、社会科学や自然科学に対する高い素養を持つ人材を育成するとともに、ハイレベルで深い学びと多様な体験的活動を通して、自ら考え、判断し、行動する力を高め、新たな社会を創造できる人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<p>○自らの可能性を高め、挑戦する気概を持ち、社会の発展に貢献する高い志を育む ○主体的に持続可能な社会の形成に参画し、多様な人々とつながりを保ちながら、その発展に寄与する態度を育てる ○「探究的な学び」、「深い学び」を通して「学際的な学び」に対する高い素養と論理的思考力を育む</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<p>○生徒に自ら考え、判断し、行動させ、様々な体験から多くを学ぶ指導を全ての教育活動で実践する ○高い学力と、それを活用して課題を解決する力や新たなものを創造する力を育む教育活動を展開する ○生徒の知的好奇心に応える多様な学びの機会を提供する ○人権尊重を基本とした集団や社会のリーダーとしての望ましい態度や行動の在り方を身に付けさせる</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<p>○様々な体験を通して学ぶ意欲にあふれ、コミュニケーション能力に優れ、他者を尊重しながら自分の個性・能力を伸ばさせようと努力する、本校においてリーダーシップを発揮できる人 ○知的好奇心に富み、自己の可能性の開拓と学力の伸長に主体的に努力できる人 ○将来の自己実現のための学びと集団生活における体験的な学びのどちらにも積極的に取り組む人</p>

学校運営計画(4月)

<p>学校運営方針</p>	<p>○豊かな心と創造力に富み、世界に貢献できる人材を育成する。 ○生徒が自ら考え、判断し、行動し、さまざまな体験から多くを学ぶ指導をすべての教育活動で実践する。</p>		<p>評価 (総合)</p>
<p>昨年度の成果と課題 昨年度は学習指導要領に沿った教育課程のもと、学力の定着・向上を目指した教育活動を計画的に展開することができた。「総合的な探究の時間」では、探究活動の基礎と実践力を身につけさせることができたので、次年度も引き続き、継続・改善していく。DX加速化推進事業(DXハイスクール)は沖縄研修や各種講演会の開催などを通じ成果を上げることができた。購入した最新機器を活用した研究活動を積極的に推進していく。 生徒のマナーやモラルの向上に向けた取り組みでは一定の効果が見られた。 高い志や折れない心の育成については各部署からさまざまなアプローチを行っている。即効性を期待せず、息長く続けていきたい。</p>	<p>年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	<p>A</p>
	<p>高い志と学力を併せもつ生徒の育成</p>	<p>○授業や講座など、高いレベルで切磋琢磨できる学習環境を整え、能動的に学習に取り組む生徒を育てる ○高い志の育成に当たっては、生徒の自己肯定感を高める様々な方策と合わせて取り組む ○社会の形成に主体的に参画する意欲を高めるため、国内外の様々なプログラムへの積極的な参加を推奨する</p>	
	<p>社会性の向上や人間性の涵養に向けた凡事徹底の指導の継続</p>	<p>○挨拶、時間の厳守、清掃の徹底など社会的に求められる基本的な行動規範の更なる定着を図る ○社会や集団の構成員としての自覚と責任感を育て、マナーやモラルの向上に重点的に取り組む ○多様な人権課題を的確に察知できる繊細な感覚と課題解決に向けた実践的な行動力を育成する</p>	
	<p>ICT機器の活用による「個に応じた学び」と「協働的な学び」の実践を進め、更なる授業力向上を目指す</p>	<p>○ICTを活用した授業改善を推進し、生徒の知的好奇心を揺さぶる授業内容の構築を図る ○生成AIの利活用に関わる研修や著作権に関する知識の周知を図り、新時代の教育にふさわしい活用法を見出す</p>	
<p>生徒理解の深化と生徒支援の充実による折れない心の育成</p>	<p>○積極的な生徒理解に努め、有効な支援や適切な合理的配慮を行い、前向きな学校生活を後押しする ○健康教育の充実を図り、生命尊重の安全な生活態度や規律ある生活習慣の確立を目指す</p>		

様式3

自己評価						学校関係者評価			
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
学力の向上	○高い志と学力の育成	学習環境の整備と授業や考査の運用及び指導の徹底を図り、高い学力の定着・向上につなげる。	類型選択希望調査、年2回の授業アンケートによって、生徒の学びや教員の指導方法などの振り返りができた。	A	A	学習指導要領に沿った教育課程に従い、学力の定着・向上を目指し、大学入試に対応できる教育活動を行うことができた。次年度は、次期学習指導要領のねらいなどを整理し、本校に必要な課題があれば検討・改善を行う。	A	・学力の向上とともに高校時代の多様な経験が人間としての成長を促進させると信じる。 ・ICTや生成AIの利活用を推進することによって生み出された余白の時間を、異なる視点を得る他者との対話、書くことを通じて自身の思考を整理する活動、新たな問いを生み出す時間として活用することで、言語活動を更に充実し高度な概念の定着を図ってほしい。	
		大学入試に対応した教育課程や指導方法の研究を進め、生徒の能動的な学習と高い志に対応できる環境について検討・改善を行う。		A					
	○ICT機器の活用や協動的な学びの推進	ICT機器や生成AIの効果的な活用を通して課題解決能力や創造力を育成し、思考力・判断力・表現力の向上を図る。	年2回の生活実態調査の結果を数値化、グラフ化し、教員間での共有、クラスや面談での活用ができた。	B	A				授業内外においてICT機器の活用が定着し、個別最適な学びや各種調査などに役立てることができた。次年度も引き続き、機器や個人情報の取り扱い方に気を配りつつ、単に効率化だけではない、効果的な利用について検討していく。
		生活実態調査、出席統計などで生徒の現状と課題を把握し、情報を共有することで、きめ細やかな指導につなげる。		A					総合的な探究の時間を中心に、探究活動の基礎を全体的に身につけさせることができた。より充実した探究活動を目指すために、予算や活動場所、施設・設備、時間確保などに課題がある。
○挑戦する気概と社会の形成に主体的に参画する意欲の向上	自らの可能性に気づき、高められるよう、総合的な探究の時間の内容や実施方法の検証を行い、更に充実した探究活動を目指す。	総合的な探究の時間の講座や研究分野、講演会の希望調査などにおいて、ほぼ希望通りの班分けができた。	B	A	沖縄研修や講演会など、DX事業を効果的に活用できた。また、課題研究や種子島・屋久島研修など、充実した活動ができ、次年度も継続して特色ある理数科の理数教育を目指す。				
	授業や目標設定の改善を図り、シラバスや年間指導計画の作成・検証・点検・修正・フィードバックを行う。		A						
○理数教育の充実	高等学校DX加速化推進事業を活用し、学習環境や授業方法、探究活動の更なる充実を目指す。	理数科独自の研修やセミナー、講演会等の充実を図るとともに、校外活動への積極的参加を促す。	A	A					
			A						
生徒の健全育成	○集団や社会の一員としての自覚と責任の育成	さわやかな挨拶、マナーとしての所作、交通安全指導に力を入れる。また、生徒の主体的清掃活動を促す。	SNS講演会に参加した保護者(希望者10名弱)のアンケート回収率はほぼ100%で、内容も好評であった	B	B	交通安全とSNS利用については、今年度学校全体で取り組む時間をかなり確保できた。清掃についての意識を高めるために、教員、生徒どちらからも更に働きかけていく必要がある。 各行事において生徒リーダーを中心とした運営ができており、大部分の生徒に積極的に取り組む姿が見られた。創立100周年に向けて、生徒の主体性を高めるために更なる仕掛けが必要である。 面談ウイークや学校生活アンケートの結果から、その後の生徒支援、保護者対応を迅速に行うことができた。特別な配慮を必要とする生徒についての把握方法を更に工夫する必要がある。 心肺蘇生法、AED、アレルギー研修を実施して、職員の危機管理意識を向上させることができた。生徒対象の健康安全教育について更に生徒自身が主体的に活動する場面を設けていきたい。	A	・学校行事や部活動などを通して他者と協働する体験をすることによって「想像力」と「対話力」を磨き、生きる力を身に付けてほしい。 ・令和8年4月から始まる自転車青切符制度やSNSの正しい利用方法を周知し、ルール・マナーを主体的に遵守する態度の育成を通して、民主的で持続可能な社会の創り手としての自覚を育ててほしい。 ・SCとSSWの専門職の視点を活用した支援を充実させることで、これからは納得感をもって自己決定できる生徒支援に努めてほしい。	
		生徒の些細な兆候を見逃さず、いじめの早期発見に努め安全・安心な教育環境を確立する。SNS利用に関する3か年の指導計画を作成、実施する。		A					
	○協働の喜び、達成感・連帯感の醸成	「筑高三大行事」の運営を通してリーダーシップ、フォロワーシップを育成し、組織の在り方、他者との協働を学ばせる。	行事を通じて生徒が互いに協力し、協同する姿が大いに見られた。	A	A				
		生徒会活動、部活動集会のより一層の充実と活性化を図り、達成感・連帯感を高める機会を増やす。		A					
○生徒理解の深化	学校生活アンケート、面談ウイーク等を十分に活用し、生徒の心のサポートを行い、問題の早期発見に努める。	学校生活アンケート、保護者アンケートともに内容を把握して面談等に即座に反映できた。	A	A					
	「合理的配慮」が必要な生徒について保護者と連携し指導体制を整え、教員間の迅速な情報共有に努める。		A						
○健康安全教育の充実	健康診断、身体測定、体力測定のスムーズな運営と精度を向上させる。	昨年度の反省をふまえ、健康診断、身体測定、体力測定の内容を改善できた。	A	A					
	心肺蘇生法、AED、アレルギー(エビペン含)研修を実施する。また、生徒と協力して、心身の健康維持のための情報提供を適宜していく。		A						
進路指導の充実	○主体的な学習を促すための進路指導計画の継続的改善	3年間を見通した進路指導計画について継続的に改善を図り、生徒が主体的に学習する意識を学校全体で醸成する。	進路希望調査や課外希望調査等を通して課外や講座の継続的な改善を図り、実施できた。	A	A	進路指導課を中心に、生徒の志望に応じて生徒が主体的に学習に取り組めるよう指導計画の改善に努めた。次年度以降も3年間を見通した指導計画の改善に取り組むたい。 学年や進路指導課を中心に、進路情報を提供し、難関大や医学部医学科を志望する生徒に対しては個別、少人数指導を行った。次年度も生徒のニーズに応じた細かな指導に取り組むたい。 キャリア教育課を中心に、生徒の進路意識を高め、高い志を育成する取り組みを実施することができた。社会人講演会では同窓会とも連携してさらに効果的な講演会を実施していきたい。 学年やキャリア教育課を中心に、総合的な探究の時間等を通して計画的に課題研究活動等に取り組んだ。次年度以降は3年間を見通したキャリア教育の効果的な改善を図りたい。	A	・カリキュラムマネジメントによって、総合的な探究の時間(PC)を確保し、生徒の「好き」を育み、「得意」を伸ばしながら、多様な社会課題に当事者意識をもって、キャリア教育や自身の探究活動などに取り組ませることによって、生きる力を育み、自らの人生を舵取りすることができる力を身に付けてほしい。	
		生徒の多様な進路希望に対応した、類型別の課外、進路別二次対策講座を充実させる。		A					
	○進路情報の提供による学習意欲の喚起	難関大学の総合型選抜や学校推薦型選抜入試に対応した指導体制を整える。	総合型選抜、学校推薦型選抜受験者に対する指導 難関大学、医学部医学科志望者に対する指導	A	A				
		大学入試制度改革に関する情報の収集と提供を行い、生徒が納得する進路選択ができるようサポート体制を整える。		A					
○社会に貢献する高い志・グローバルな視野をもつ人材の育成	社会人講演会や医学部・難関大学進学講座の一層の充実を図り、高い志をもつ大切さを喚起する。	社会人講演会や難関大学・医学部医学科進学講座の実施 外部講座やインターンシップへの参加	A	A					
	高大連携事業、外部講座及びインターンシップへの参加を促し、グローバルな視野をもつ人材の育成を図る。		A						
○思考力・判断力・表現力や主体的に学ぶ態度の育成	一般公募の小論文コンクール等に積極的に出品させる中で、添削指導を充実させて言語活動の充実を図る。	第1、2学年における小論文コンクール 総合的な探究の時間を通してのキャリア教育	A	A					
	課題研究活動を中心に、社会及び学術的な課題を探究的に解決する態度を身に付けさせる。		B						

様式3

広報活動の充実	○中学生とその保護者への積極的広報の推進	中学校、学習塾への広報活動を充実させると共に、理数科(第4・6学区)の広報を積極的に実施する。	体験入学後の中学生とその保護者に対するアンケートや小学生向けイベントの事後アンケートなど、反応は概ね良好であった。	A	A	A	学校案内や理数科案内、学校紹介ビデオ、行事における生徒の活躍の場など、改善・充実させることができた。次年度も、中学生やその保護者、学習塾等への広報活動を積極的に行う。	A	・SNSを活用して、情報発信の即時性を高めることで、本校の特色ある教育活動の魅力をより効果的に伝えてほしい。 ・生徒を主体とする広報活動を更に充実することで、第5学区の生徒にとって目標とされる存在で在り続けてほしい。
		「中学生の体験入学」等の行事を改善・充実させ、地域の方々や小学生に対する広報活動を行う。		A					
広報活動の充実	○効果的な広報活動の展開	学校案内等の資料や動画、ホームページやSNS等、効果的な情報の提供を行い、本校の特色や魅力を発信する。		A	A	A	ホームページの新CMSへの移行を行い、その構成が改善された。また、Instagramの投稿を適切に実施し、フォロワー数が約40%増加した。次年度も個人情報の管理を徹底し、生徒・職員の協力を得ながら活動していく。	A	
		学校評議員や学校関係者評価委員に対して学校行事への参加を要請し、教育活動に対する意見を求める。		A					
図書活動の充実	○主体的な読書活動の推進と図書館利用の拡大	図書館オリエンテーションや読書週間の充実により、主体的な読書活動の推進する。		A	A	A	司書を中心に図書委員による企画展示を積極的に行うとともに校外の活動、研修に参加し、図書館利用促進に努めた。次年度も継続し、図書館の活性化に繋げたい。	A	・芸術鑑賞などの機会を生かして、生徒たちに一流の「ホンモノ」の凄みに触れる体験を数多く味わわせることで、一人一人の感受性や感性を磨き、持てる能力を最大限に伸ばして欲しい。
		図書委員会活動を充実させ、図書館の積極的活用の推進を図る。		A					
	○豊かな感性と創造力の育成	芸術鑑賞を実施して多様な文化に親しむ態度の涵養を図り、知識と教養を基盤とした豊かな感性と創造力を育成する。	実施後の感想文から、感性豊かに鑑賞できたと考えられる。	A	A	A	芸術鑑賞は準備から円滑に運営でき、生徒にも好評であった。校誌編集にICT機器を利用し、より効率的に作成することができた。次年度も継続したい。	A	
		○学校文化の継承と社会に貢献できる人材の育成	生徒の主体的活動による学校文化や歴史の記録としての校誌「筑紫丘」60号の計画的作成と創立100周年に向けて内容充実を図る。						
事務室運営	○経営参加型の事務室業務の推進	生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な予算の編成・執行を行う。		A	A	A	生徒の教育的効果や安心・安全の観点から各分掌と連携を図り、予算の編成及び執行に努めることができた。また、保護者向け文書は、可能な限り分かりやすい表現や体裁に心掛けた。次年度は、引き続き教育目標の実現に向けた予算編成・執行に努めるとともに、校舎等改築工事を安全最優先で遂行したい。	A	・今後も創立100周年に向けて本校の多様な教育活動の充実を支える予算の編成及び執行に努めるとともに保護者への丁寧な対応に継続して取り組んでほしい。
		各分掌と情報の共有化を図り、教員との緊密な連携によって学校経営目標を実現するための事務処理を行う。		A					
		生徒・保護者に対して、より分かりやすい内容で的確に情報発信する。		B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIやICTの利活用による時間創出を最大限に活用して、生徒の言語活動を更に充実させ、高度な概念形成を図る深い学びを導く授業改善を図る。 ・多様な他者と協働する学校行事や体験活動などを通して「想像力」と「対話力」を磨き、自身の言動を振り返らせることでメタ認知を育成する。 ・ルールやマナーを主体的に遵守する態度の育成を通して、民主的で持続可能な社会の創り手としての自覚を育成する。 ・SCとSSWの専門的な視点を活用するとともに、伴走型の支援を充実させることで、納得感をもって自己決定できる丁寧な生徒支援に努める。 ・生徒の「好き」を育み、「得意」を伸ばしながら、社会の多様な課題に当事者意識をもって臨むことで、自らの人生を舵取りすることができる力を育む。
--

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
大運動会の企画内容の復活や1年生の生徒の出席皆勤率の回復など、コロナ禍からのレジリエンスが随所にみられる。今後の本校の教育活動の更なる充実・発展に期待したい。	